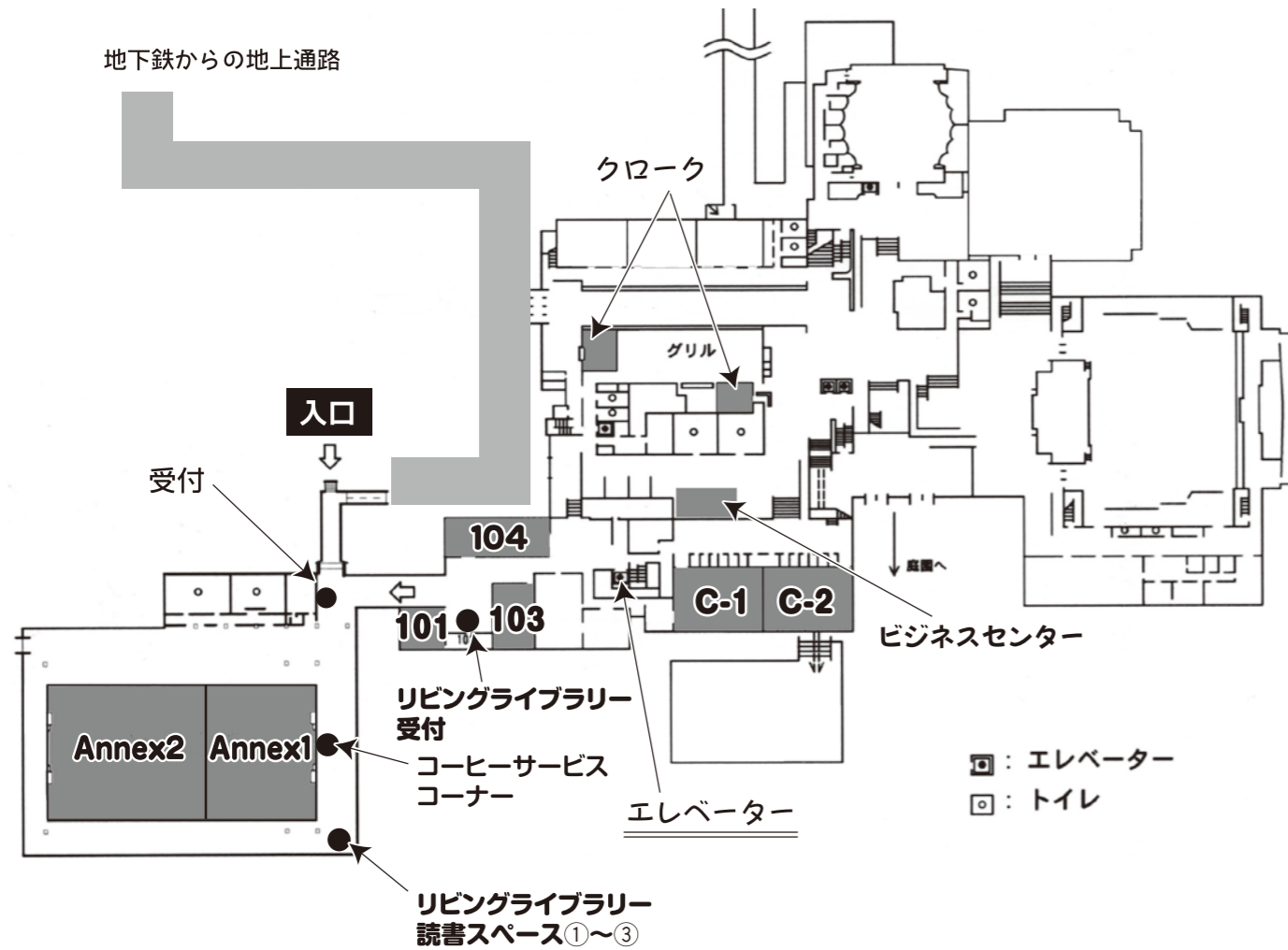


会場案内

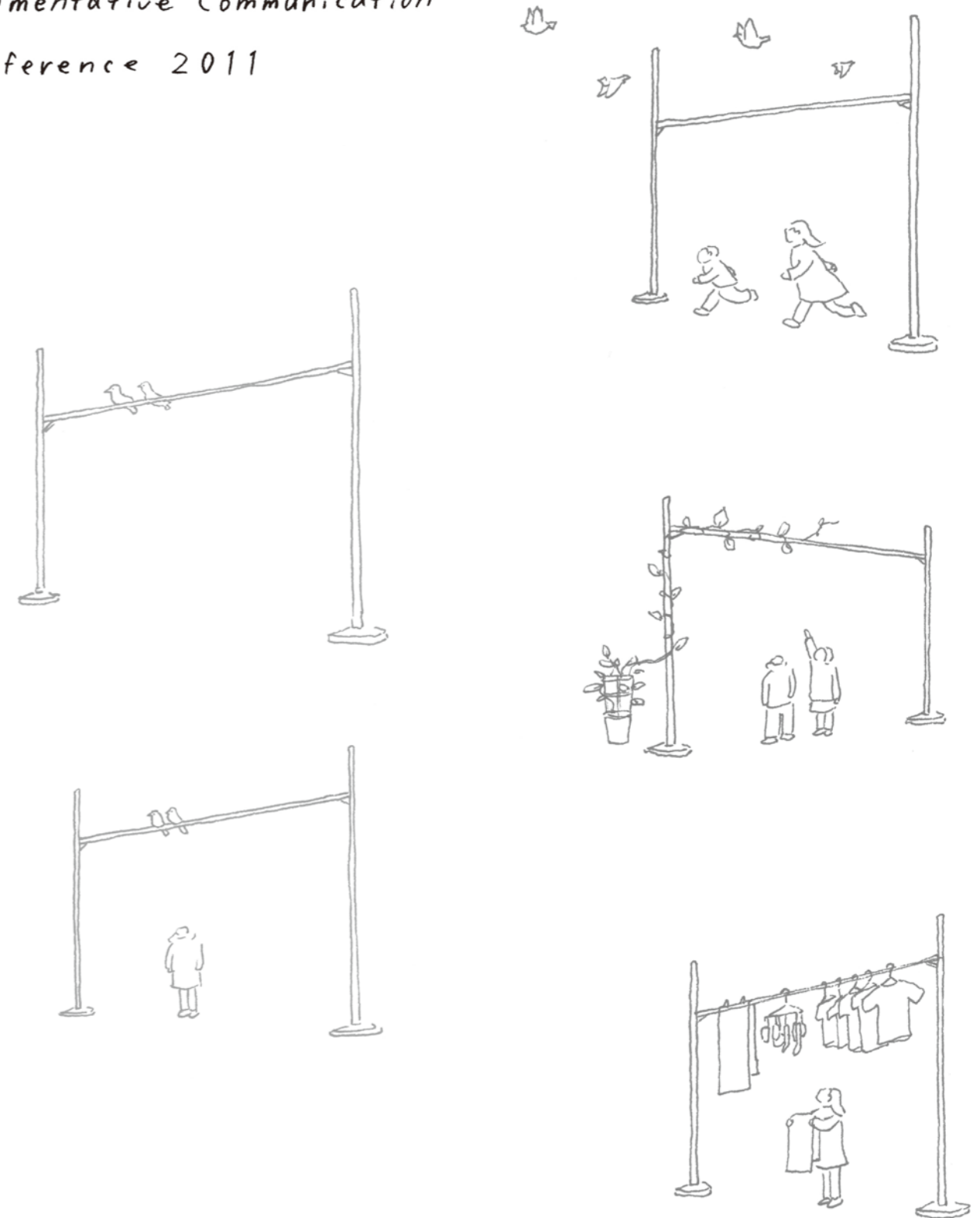
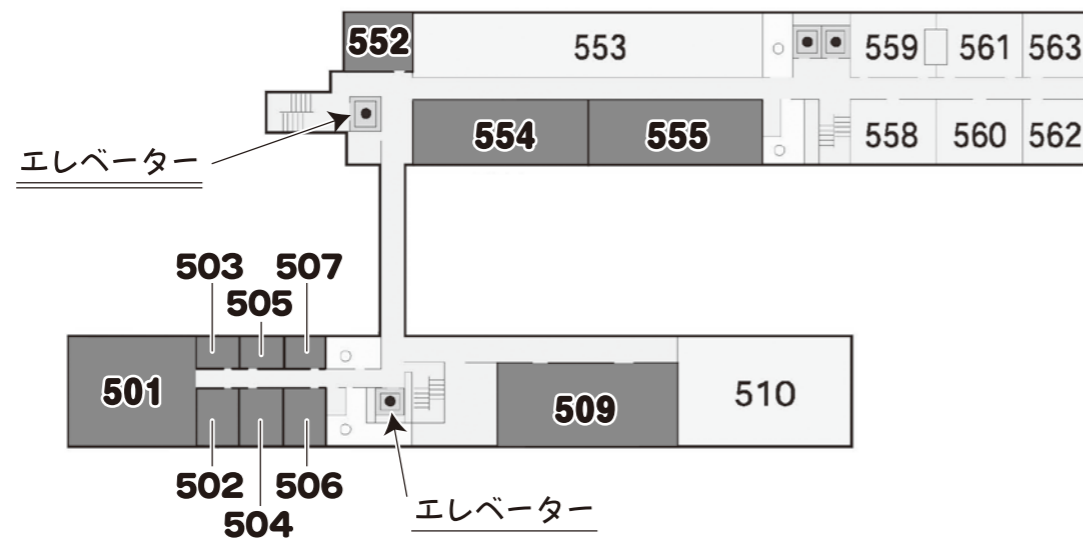
ATAC 2011

Assistive Technology &
Augmentative Communication
Conference 2011

1F



5F



ATACカンファレンスとは？

ATACカンファレンスは障害や病気のある人の生活を支援するために、特別支援教育や福祉の現場で求められる思想や技術(コミュニケーション技法とテクノロジー)、また周辺の課題とその解決策を分かりやすく伝える会として1996年からスタートしたカンファレンスです。

「障害があっても自己決定できれば生活の質が向上する」、「重い障害があっても子ども達は普通学校の中で学ぶことで成長することができる」といった考えに共感する人も多いと思います。しかし、理念だけでは、実際の生活はなかなか変わりません。今、求められているのは、それを現実のものとするための技術(テクノロジー)と技法(テクニック)であると思います。そこでATACカンファレンスは、それについて分かりやすく学んでいただける場を提供しようという気持ちからスタートしました。

一方、技術や技法を活かすには、障害、福祉、教育に関する見かたについても我々が偏りのない知識を持っておくべきだと考えています。ATACカンファレンス2011では、AT(支援技術)とAAC(コミュニケーション技法)に関する数多くのセミナーが実施されます。主体は参加者の方々です。自由にお好きなセミナーを選んで学んで下さい。1つの技術や技法がいつでもどこでも最良であるとは限りません。人や場面が変わればその方法が最悪なものになる可能性もあります。いろいろな視点から問題を見て、多くの方法の中から最適な技術や技法を選択できることが大切だと思います。このカンファレンスが、いろいろな視点をもっといただく良い機会になればと思います。

セミナーに司会者はいません。各セミナーの講師の方々には進行はおまかせしています。講師や他の参加者の方々と自由にコミュニケーションをとりながら楽しく学んで下さい。

今年のテーマは「人と技術」

テクノロジーで障害のある人の能力を増強することが可能になってきました。また、遺伝子治療や神経再生などの科学技術でそれを克服する研究が進んでいます。果たしてそれは我々に何をもたらすのでしょうか？ ATACカンファレンスの1つのテーマはテクノロジーですが、それですべての問題を解決できるとは思っていません。科学技術の進歩から取り残される障害や社会的困難さに直面する人もいます。人の支援や制度の設計が重要だと考えています。今年のATACカンファレンスは科学技術の進歩を眺めつつ、未来の教育や福祉を描いてみます。

もくじ

ATACカンファレンスとは?.....	1
参加についてのご案内.....	3
セミナー・イベントについてのご案内.....	4
プログラム	
12月16日(金) [プリカンファレンス].....	5
12月17日(土) [メインカンファレンス].....	6~7
12月18日(日) [メインカンファレンス].....	8~9
セミナー要旨	
12月17日(土) [メインカンファレンス].....	10~11
12月18日(日) [メインカンファレンス].....	12~13
一般発表(研究・実践ポスター発表、テーブルデモ発表).....	14~17
企業・団体製品展示.....	18

ATAC2011「人と技術」

プリカンファレンス
2011/12/16 (fri)
10:00—16:45 (9:30受付開始)

メインカンファレンス
2010/12/17 (sat)
9:30—17:00 (9:00受付開始)
17:15—19:00 (レセプション)

2010/12/18 (sun)
9:15—16:00 (9:00受付開始)

参加についてのご案内

受付について

- ・ATACカンファレンス受付は、京都国際会館アネックスホール入口にあります。京都国際会館正面玄関とは異なりますのでご注意ください。
- ・受付にてお名前をお伝えください。名札ストラップ及び領収書、関係資料等をお渡しします。
- ・この名札ストラップによってATACカンファレンスの参加者と認められますので、開催期間中、会場内では、必ず着用して下さい。

セミナーへの参加について

- ・12/16(金)のプリカンファレンスは、事前登録制となっております。事前にご登録いただいたコース以外の受講はできませんので、ご了承下さい。
- ・12/17(土)、12/18(日)のメインカンファレンスでは、複数のセミナーが同時に行われています。当日、ご自由に選択してご参加下さい。

テキストについて

- ・【**プリカンファレンス**】 受付にて配布します。テキストあるいは資料、ランチ代が、セミナー代に含まれています。
- ・【**メインカンファレンス (Proceeding)**】 受付横で1冊1,000円にて販売します。ご希望の方はお買い求め下さい。

クロークについて

- ・12/16(金)のプリカンファレンスにおいては、会館常設のクロークをご利用下さい。
- ・12/17(土)、12/18(日)のメインカンファレンスでは、ATACでもクロークを設けています(場所は裏面のマップにてご確認ください)。こちらでお荷物をお預かりしますが、貴重品については、各自での管理をお願いします。貴重品等の紛失・損傷・盗難等は、一切の責任を負いかねますことご了承下さい。
- ・12/17(土)のクロークのご利用時間は、**17:15まで**とさせていただきます。17:15からのレセプションに参加される場合は、必ず開始前にお荷物を引き取りの上、お荷物を持ってご参加下さい。

セミナーの撮影・録音について

- ・**セミナーは原則撮影・録音全面禁止**ですが、個人での振り返りなどに利用するなどの理由での記録は講師の承諾を得て、他の参加者の迷惑にならない範囲で行って下さい。

食事について

- ・会館内にはレストラン「グリル」(営業時間10:00~17:00)があります。また、12/17(土)、12/18(日)の昼食時には受付近辺にてお弁当の販売も行っております。
- ・12/16(金)のプリカンファレンスにおいては、ランチ代が参加費に含まれておりますので、お弁当をご用意いたします。
- ・12/17(土)、12/18(日)のメインカンファレンスにおいては、アネックスホール横(ランチコーナー)にて、コーヒー・ドーナツ等の販売も行っておりますので、どうぞご利用下さい。
- ・セミナー会場内での飲食は可能です。ごみの始末にご協力をお願いいたします。

リビングライブラリー

- ・今年もATACカンファレンスにて「リビングライブラリー」を開催します。リビングライブラリーではユニークな経験を積んだ人々を「生きている本」として30分間貸し出します(予約制)。この図書館は、様々な背景をもつ当事者と直接対話し、つながるチャンスにあふれています。ぜひリビングライブラリーに参加し、「生きている本」の語りに耳を傾けてみて下さい。別配布しましたご案内に蔵書リストが記載されています。リビングライブラリーの閲覧方法等の詳細につきましては、Room102前にご覧いただけますリビングライブラリー受付でお尋ね下さい。

喫煙について

- ・会場内はホール、通路を含め禁煙です。指定場所以外での喫煙は、ご遠慮下さい。

休養場所について

- ・ご気分が悪くなられた方、お子様のおむつ交換などのスペースをご希望の方は、受付までお越し下さい。

アンケートご記入のお願い

- ・当日、受付での関係資料の中にアンケートを同封しますので、ご記入をお願いします。お帰りの際に、受付横のボックスにお入れ下さい。
- ・アンケートをご提出された方の中から抽選で5名の方に「ATACカンファレンス2012」の参加費半額券を差し上げます。抽選結果は、半額券の発送をもって、発表とかえさせていただきます。

当日の連絡先

- ・カンファレンス期間中、ATACカンファレンス事務局へのお問い合わせは、**080-1032-1705**までお願いします。

受付 9:30～ アネックスホール入口

セミナー・イベントについてのご案内

❖ リビングライブラリー ～ココロのバリア、とかしてみませんか?～

12/17(土) 12:00～16:30
12/18(日) 10:00～14:30
(※本を借りるには予約が必要です。17日は12:00、18日は10:00に予約を開始します)

リビングライブラリーは2000年にデンマークで始まった活動です。この図書館では、ユニークな経験を積んだ人たちが「生きている本」として30分間貸し出します。読み手は、本を借りることで、30分間、語り部である本と対話することができます。普段あまり接する機会の少ない本、以前から興味をもっていた本、全く聞いたことのない本など、様々な「生きている本」がみなさまをお待ちしております。今回は、障害者の性介護団体代表、薬物依存からの回復途上者、ホームレス、トランスジェンダー、アスペルガー症候群当事者などの「生きている本」が揃いました。ぜひこの機会に、「生きている本」の語り部に耳を傾けてみてください。

ATACカンファレンスでは、従来から、当事者の声を聞き、障害を考えることを目的としたセミナーを実施してきました。当事者と直接対話することを通して、「自分たちの固定観念に気づききっかけとし、多様性を理解しよう」と、2009年からリビングライブラリーをプログラムに組み込みました。

リビングライブラリーは予約制であるため、ご利用にあたって、リビングライブラリー受付(Room 102 前)で登録・貸出予約の手続きが必要です。「生きている本」は、一人で借りていただいても、グループで借りていただいても結構です。蔵書のリストや閲覧方法の詳細についてはリビングライブラリー受付(Room 102 前)にてお尋ねください。

❖ 研究・実践ポスター発表 テーブルデモ発表 企業・団体製品展示

12/17(土) 10:00～16:00
12/18(日) 9:00～15:30
Room:Annex1

これまでのATACカンファレンスは多くのセミナーが同時並行で開催され、参加者がゆっくり情報交換する時間があまりとれませんでした。そこで今年のATACはポスターと展示発表のスペースを充実しています。Annex1のラウンドテーブルに腰掛けて、発表者や展示担当者やゆっくり語って見て下さい。

❖ レセプション(懇親会)

12月17日(土)カンファレンス終了後(17:15-19:00)に会場内でレセプション(懇親会)を開催します。参加ご希望の方は、事前にお申し込みください。参加費は5,000円です。当日も若干数は受付をいたしますが、定員になり次第締め切らせていただきますので、ご了承ください。

❖ 託児・支援サービスについて

託児サービスのご利用は、事前にお申し込みいただいた方のみとさせていただきます。当日のお申し込みは出来ませんのでご了承ください。

●10:00～16:45 一日通しのセミナーとなります

※プリカンファレンスは事前登録制となっております。ご登録いただいたコース以外の受講は出来ませんので、ご了承下さい。

Room	演題・内容	講師
Room:104 基礎セミナー	★コース1「重度重複障害のためのAAC・AT・ME(医療技術)」 重度重複障害の子どもたちが増加し、重度化している中、教育や福祉の現場での支援が課題となっています。ここでは、彼らの生活環境を整え、残存機能を活用し、コミュニケーションに結び付ける方法を事例とデモを中心に分かり易く学んでいきます。それと同時に、彼らの周囲にある呼吸器やカテーテルなどの医療機器の知識についても解説します。	金森 克浩(国立特別支援教育総合研究所) 福島 勇(南福岡特別支援学校) 多田 勝義(徳島文理大学) 外山 世志之(東京都立光明特別支援学校)
Room:554 基礎セミナー	★コース2「自閉症や知的障害とのコミュニケーション」 自閉症や知的障害の方々とのコミュニケーションは分かりやすさや伝えやすさを考えるだけで大きく変わります。パニックを抑えるのではなく、コミュニケーションを介してパニックが起きないように生活環境をどのように作り出すかがカギとなります。その方法について実習を交えながら楽しく学んでいただけます。	坂井 聡(香川大学 教育学部)
Room:101 基礎セミナー	★コース3「支援技術の基礎」 教育や福祉にテクノロジーを活用したくても、技術に苦手意識がある方々向けのセミナーです。実は誰もが使っているテクノロジーの中に活用出来るものが沢山あります。事例を通して身近にあるテクノロジーの活用法を学んでいきましょう。同時に、最新のハイテク社会が福祉や教育をどのように変えていくについても解説していきます。	渡辺 崇史(日本福祉大学) 巖淵 守(東京大学)
Room:501 基礎セミナー	★コース4「環境の整備(姿勢や道具)から支える障害のある人や高齢者の生活・学習」 障害のある人や高齢者の生活や学習を支援する上で、当事者の努力に頼るだけでなく、その周辺の環境を整備することも大切な要素です。事例紹介やデモを通じて姿勢保持の基本的な知識や補助具など道具の工夫や活用の仕方を学んでいきます。	松本 琢磨 森田 傑 立石 加奈子 鴨下 賢一 (日本作業療法士協会)
Room:552 実力Upセミナー	★コース5「障害者就労を支援する技術」 障害者雇用は企業の社会的責任だとされながらもなかなか法定雇用率を達成する企業は増えません。また障害種別によっては求人が少ないのも問題です。いまの雇用の在り方を検証すると同時に、新しい就労の在り方を、働いている当事者の人の話を聞きながら整理していきます。	岡 耕平(滋慶医療科学大学院大学)
Room:509 実力Upセミナー	★コース6「iPadなどタブレットPCが開く未来の福祉や教育」 タブレットPCがいつでもどこでもパソコンを利用できる環境を提供してきています。デジタル教科書とともにこれからの学校において子ども達の学習を支援する道具として教室に入ってくると思われそうですが、多くの人は漠然とした不安や疑問を抱えています。発達障害の子ども達を強力に支援するツールとしてこれらの技術を事例とともに分かりやすく解説し、未来の教室を皆さんと描いてみます。	河野 俊寛(石川県立明和特別支援学校 教諭・言語聴覚士) 高橋 麻衣子(東京大学) 井上 貴子(安来市立赤江小学校)
Room:103 実力Upセミナー	★コース7「あなたのWindowsパソコンとMS Office(WordやPowerPoint)を特別支援教育に活かす」 多くの皆さんが使っているWindowsの中にはワードやパワーポイントなど多くのアプリケーションが入っていると思います。ここではこれらのアプリケーションを特別支援教育に活かす裏ワザを学んでいきます。合わせて、こういったアプリケーションを用いてユニバーサルな教育の実現方法についても、合理的配慮をキーワードに、授業や試験を実例に解説していきます。	近藤 武夫(東京大学 特任講師) 大島 友子(マイクロソフト) 平林 ルミ(日本学術振興会・東京学芸大学 特別研究員)
Room:555 実力Upセミナー	★コース8「利用者・保護者とのコミュニケーションを磨く」 教育や福祉のサービス利用者とのコミュニケーションに難しさを感じる人たちのためのセミナーです。障害当事者やその家族の人たちの話に耳を傾けながら、また、当事者に参加してもらう実習を通じて、コミュニケーションスキルを学んでいきます。	中邑 賢龍(東京大学)

受付 9:00～ アネックスホール入口

■:ATACセッション ●:企業・団体セッション ★:参加者企画セッション

Room	人と技術 Annex2	対話を楽しむ Annex1	ICTと特別支援教育 C1
9:30-10:00	9:30-10:00 ■【No.7-1-A2】 Opening 「人と技術」		
10:00-10:10			10:10-11:00 ★【No.7-2-C1】 「支援技術を安心・安全に利用するためにスマートフォン・タブレット、Facebookやtwitterなどを安全に利用する」 寺田 慶治(セキュリティ対策推進協議会(SPREAD))
10:10-11:00	10:10-11:00 ●【No.7-2-A2】 ソフトバンク セッション タブレットPCを用いた特別支援教育 「あきちゃんの魔法の筆箱プロジェクト報告(1) 知的障害や発達障害への実践事例」 中邑 賢龍(東京大学)・井上 貴子(安来市立赤江小学校)		
11:00-11:10			11:10-12:00 ★【No.7-3-C1】 「特別支援学校での情報端末(iPad, iPod)の活用事例」 白濱 菜穂子(愛知県立みあい養護学校)
11:10-12:00	11:10-12:00 リビングライブラリーをご存知ですか? 様々な体験をした人たちが「生きている本」として借り出し、本となった語り部から直接話を聞ける図書館です。その活動の意義、どこで開催されているか、どうやって本が編集されるかなどリビングライブラリーのすべてをご紹介します。ランチをご持参下さい。		
12:00-13:00	12:15-12:45 ■【No.7-4-A2】 ランチトーク 「障害を語る」 大河内 直之(東京大学)・中邑 賢龍(東京大学)	10:00-16:00 ★【No.7-3-A1】 研究・実践ポスター発表 テーブルデモ発表 企業・団体製品展示	
13:00-13:50	13:00-13:50 ■【No.7-5-A2】 「忘れるということ —記憶に問題のある人にとって必要な支援を 考える—」 増本 康平(神戸大学大学院)		13:00-13:50 ●【No.7-5-C1】 Microsoft セッション 「教える工夫 —PowerPointを使った特別 支援教育教材の作り方—」 近藤 武夫(東京大学)
13:50-14:00			
14:00-14:50	14:00-14:50 ■【No.7-6-A2】 「新しい知能検査を学ぶ WISC-IVを理解する」 上野 一彦(大学入試センター)		
14:50-15:00			
15:00-15:50			15:00-15:50 ●【No.7-7-C1】 Microsoft セッション 「勉強や仕事の片づけが苦手な人のために —OneNoteを使った整理術—」 平林 ルミ(日本学術振興会・東京学芸大学 特別研究員)・ 近藤 武夫(東京大学)
15:50-16:00			
16:00-17:00	16:00-17:00 ■【No.7-8-A2】 対談:「ICT時代の新しい能力を考える」 上野 一彦(大学入試センター)・ 中邑 賢龍(東京大学)		
17:15		17:15-19:00 ■【No.7-9-A1】 レセプション	

テクノロジーで障害のある人の能力を増強することが可能になってきました。また、遺伝子治療や神経再生などの科学技術でそれを克服する研究が進んでいます。果たしてそれは我々に何をもたらすのでしょうか?科学技術の進歩から取り残される障害や社会的困難さに直面する人もいます。今年のATACカンファレンスは科学技術の進歩を眺めつつ、一人も取り残さない未来の教育や福祉を描いています。

「研究・実践ポスター発表」と「テーブルデモ発表」の掲示は、上記の期間中行われておりますが、責任発表時間には、発表者がブースにてご説明いたします。責任発表時間については、それぞれのブースにてご確認ください。「企業・団体製品展示」は常時行われています。

軽食と飲み物を用意したレセプションを開催します。定員がありますので事前に申し込みが必要です。参加費は別途5,000円となります。

福祉や教育の未来を考える C2	重度肢体不自由の支援 554	ICTと福祉 555	多様性の理解 502-507
10:10-11:00 ■【No.7-2-C2】 「クラウドコンピューティングやSNSを理解してこれからの福祉や教育を考える」 巖淵 守(東京大学)	10:10-11:00 ★【No.7-2-554】 「「生活を豊かにする」キャスパーアプローチ(旧バランスシーティング)」 上川享宏(NPO法人「生活を豊かにする」障がい児・者支援福祉協会)	10:10-11:00 ★【No.7-2-555】 「発達障害のある人の医療トラブル」 岡 耕平(滋慶医療科学大学院大学)	
11:10-12:00 ■【No.7-3-C2】 「合理的配慮の提供から生まれるユニバーサルな教育」 近藤 武夫(東京大学)	11:10-12:00 ★【No.7-3-554】 「難病患者／重度障害者のコミュニケーション支援技術 ～スイッチひとつが開く世界～」 伊藤 史人(一橋大学、ICT救助隊)	11:10-12:00 ■【No.7-3-555】 「介護の必要な人のための安全・安心テクノロジー —見守り装置からアラーム・リマインダーまで—」 巖淵 守(東京大学)	12:00- 登録・予約開始
13:00-13:50 ●【No.7-5-C2】 「VOCAユーザーの現状と、弊社AAC機器の今後の展開について」 パシフィックサブライ(株)	13:00-13:50 ■【No.7-5-554】 「車いすの目利きを目指す —さまざまな車いすの見方・選び方・ 適合の基礎—」 渡辺 崇史(日本福祉大学)	13:00-13:50 ■【No.7-5-555】 「海外の最新の支援技術」 巖淵 守(東京大学)	13:00-13:30 ■【No.LL7-1】 リビングライブラリー 【定員制】
			14:00-14:30 ■【No.LL7-2】 リビングライブラリー 【定員制】
15:00-15:50 ●【No.7-7-C2】 「ざわってみよう!新世代の支援ツール「トーキングエイド for iPad(仮称)」体験会」 (株)バンダイナムコゲームス	15:00-15:50 ■【No.7-7-554】 「重度肢体不自由がある人の残存機能のとらえ方」 畠山 卓朗(早稲田大学)	15:00-15:50 ★【No.7-7-555】 「既存のPowerPoint教材をiPadで活用する方法 —いいアプリが見つけられなければPowerPointで作っちゃおう!—」 高松 崇(NPO法人 支援機器普及促進協会(ATDS))	15:00-15:30 ■【No.LL7-3】 リビングライブラリー 【定員制】
			16:00-16:30 ■【No.LL7-4】 リビングライブラリー 【定員制】

リビングライブラリーは予約制であるため、ご利用にあたって、リビングライブラリー受付(Room 102 前)で登録・貸出予約の手続きが必要です。「生きている本」は、一人で借りていただいても、グループで借りていただいても結構です。蔵書のリストや閲覧方法の詳細についてはリビングライブラリー受付(Room 102 前)にてお尋ねください。

受付 9:00～ アネックスホール入口

■:ATACセッション ●:企業・団体セッション ★:参加者企画セッション

Room	人と技術 Annex2	対話を楽しむ Annex1	ICTと特別支援教育 C1
9:15-10:45	9:15-10:45 ★【No.8-1-A2】 「ここまでできる?ここまでやるか!」のPowerPoint 矢島 悟・本田 祐介(E-Yo!視覚支援club/長野県伊那養護学校)		9:15-10:45 ■【No.8-1-C1】 「AAC(拡大・代替コミュニケーション)の基礎ー重度障害のある人たちとのコミュニケーションー」 中邑 賢龍(東京大学)
10:45-11:00 11:00-12:00	11:00-12:00 ●【No.8-2-A2】 ソフトバンク セッション タブレットPCを用いた特別支援教育 「あきちゃんの魔法の筆箱プロジェクト報告(2) 肢体不自由や感覚障害への実践事例」 中邑 賢龍(東京大学)・他	9:00-15:30 ★【No.8-1-A1】 研究・実践ポスター発表 テーブルデモ発表 企業・団体製品展示	11:00-12:00 ■【No.8-2-C1】 「環境を調整することで変えるコミュニケーションーTEACCHに学ぶものー」 坂井 聡(香川大学)
12:00-13:00	12:15-12:45 ■【No.7-4-A2】 ランチトーク 「障害を語る」 中邑 賢龍(東京大学)・他 ゲスト		
13:00-13:50	13:00-13:50 ■【No.8-4-A2】 対談:「心ある技術利用について考えるートップランナーが語る失敗ー」 畠山 卓朗(早稲田大学)・坂井 聡(香川大学)・渡辺 崇史(日本福祉大学) 聞き手:中邑 賢龍(東京大学)		
13:50-14:00 14:00-15:30	14:00-15:30 ■【No.8-5-A2】 一般公開パネルディスカッション 「ICT時代の障害のある子どもの入試を考えるー合理的配慮とは何か?ー」 中邑 賢龍(東京大学)・近藤 武夫(東京大学)・平林 ルミ(日本学術振興会・東京学芸大学 特別研究員)		
15:30-16:00	15:30-16:00 ■【No.8-6-A2】 Closing		

「研究・実践ポスター発表」と「テーブルデモ発表」の掲示は、上記の期間中行われておりますが、責任発表時間には、発表者がブースにてご説明いたします。責任発表時間については、それぞれのブースにてご確認ください。
「企業・団体製品展示」は常時行われています。

ランチをご持参下さい。様々な障害のある人に登壇してもらい、どのようにランチをとっているのか話してもらいます。普段は意識しない食事をとるという行動をきくと意識できるに違いありません。

今年のATACカンファレンスで何が見えてきましたか? 少し振り返ってみましょう。

福祉や教育の未来を考える C2	重度肢体不自由の支援 554	ICTと福祉 555	多様性の理解 502-507
9:15-10:45 ●【No.8-1-C2】 OT協会 セッション 「作業療法士が行う遊びから学習への支援」 高橋 知義(こくま福祉会 こくま学園)	9:15-10:45 ★【No.8-1-554】 「e-ATユニットを使いこなそう! ~AACとATを融合させた技法・概念の紹介~」 小西 順(大阪府立堺支援学校)	9:15-10:45 ★【No.8-1-555】 「読み書き障害の「オスカー・ピストリウス」をめざして ~学校で読み書き支援技術を駆使して学習する子ども達を育てるためには~」 河野 俊寛(石川県立明和特別支援学校)	10:00-登録・予約開始
11:00-12:00 ★【No.8-2-C2】 「息子マッチと支援機器たち コミュニケーションの楽しさを引きだしてね ~息子の経験値アップの挑戦」 朝岡 有香(保護者)	11:00-12:00 ★【No.8-2-554】 「支援機器や支援ツールが教育現場で当たり前に使われる時代を迎えるには? ~専門家、教員、保護者の立場から~」 小川 修史(兵庫教育大学)	11:00-12:00 ■【No.8-2-555】 「次に伝わる実践の方法 福祉や特別支援教育現場での記録の取り方・効果の見方を学ぶ」 高橋 麻衣子(東京大学)	11:00-11:30 ■【No.LL8-1】 リビングライブラリー 【定員制】
			12:15-12:45 ■【No.LL8-2】 リビングライブラリー 【定員制】
		13:00-13:50 ■【No.8-4-555】 「簡単な統計 そこで平均を使っているのでしょうか? 平均値やSD・偏差値を理解する」 高橋 麻衣子(東京大学)	13:00-13:30 ■【No.LL8-3】 リビングライブラリー 【定員制】
		14:00-14:50 ■【No.8-5-555】 「ログを記録することで変える福祉・教育ー誰でも出来る記録方法ー」 武長 龍樹・高橋 麻衣子・巖淵 守(東京大学)	14:00-14:30 ■【No.LL8-4】 リビングライブラリー 【定員制】

リビングライブラリーは予約制であるため、ご利用にあたって、リビングライブラリー受付(Room 102 前)で登録・貸出予約の手続きが必要です。「生きている本」は、一人で借りていただいても、グループで借りていただいても結構です。蔵書のリストや閲覧方法の詳細についてはリビングライブラリー受付(Room 102 前)にてお尋ねください。

時間	Room	セミナー番号／講義名／講師名	内容
9:30-10:00	Annex2	■【No.7-1-A2】 人と技術 Opening 「人と技術」	テクノロジーで障害のある人の能力を増強することが可能になってきました。また、遺伝子治療や神経再生などの科学技術でそれを克服する研究が進んでいます。果たしてそれは我々に何をもたらすのでしょうか?科学技術の進歩から取り残される障害や社会的困難さに直面する人もいます。今年のATACカンファレンスは科学技術の進歩を眺めつつ、一人も取り残さない未来の教育や福祉を描いてみます。
10:10-11:00	Annex2	●【No.7-2-A2】 人と技術 ソフトバンク セッション タブレットPCを用いた特別支援教育 「あきちゃんの魔法の筆箱プロジェクト報告(1) 知的障害や発達障害への実践事例」 中邑 賢龍(東京大学)・井上 實子(安来市立赤江小学校)	「あきちゃんの魔法の筆箱プロジェクト」(ソフトバンクグループと東京大学先端研 人間支援工学分野の共同プロジェクト)では、全国の特別支援教育の現場にiPadを提供し、どのようなアプリケーションがどのような子どもに有効か、また、どのような問題が生じるかを検討しています。ここでは、そこで報告された知的障害・発達障害への適用事例を紹介しながらタブレットPCを用いた教育を考えてみます。
	Room:C1	★【No.7-2-C1】 ICTと特別支援教育 「支援技術を安心・安全に利用するために スマートフォン・タブレット、Facebookやtwitterなどを安全に利用する」 寺田 慶治(セキュリティ対策推進協議会(SPREAD))	スマートフォンやタブレットなどの普及により手軽に様々な支援技術が利用できるようになりました。しかし、その一方で多機能であるがゆえの危険性もそこには潜んでおり、ケータイやパソコンなどと同様にセキュリティ対策をしないと悪用されたり、落ちる可能性があります。当事者はもちろん周囲の人がほんの少し関心を持って、適切な対応をして安全・安心にスマートフォンなどを支援技術に有効に活用しましょう。
	Room:C2	■【No.7-2-C2】 福祉や教育の未来を考える 「クラウドコンピューティングやSNSを理解して これからの福祉や教育を考える」 巖淵 守(東京大学)	インターネットの利用に関連して、最近、「クラウド」や「ソーシャルネットワークサービス(SNS)」という言葉がしばしば耳にできるようになりました。2011年は、東日本大震災においてこれら新しい技術が支援情報の共有に大きな役割を果たし、その存在を多くの人に知られるようになりました。クラウドやSNSは、私たちにとってすでに身近に利用できる技術になってきています。ここでは、これら技術について、その基本を理解し、福祉や教育への応用の現状とこれからについて考えます。テクノロジーが苦手な人も大歓迎です。
	Room:554	★【No.7-2-554】 重度肢体不自由の支援 「『生活を豊かにする』キャスパーアプローチ(旧バランスシーティング)」 上川 享宏(NPO法人「生活を豊かにする」障がい児者支援福祉協会)	姿勢が安定せず、コミュニケーション機器を上手く使いこなせない。「少しの時間なら身体を起こして前を見る事は出来るが、すぐに頭を突っ伏してしまう、身体が倒れてしまう。」等、姿勢の事で悩んでおられる方が多いと思います。そのような方々に、「キャスパーアプローチ(旧称バランスシーティング)」と言う姿勢保持の技術について、具体的な画像や動画をおりまぜながら、ご紹介させていただきます。
	Room:555	★【No.7-2-555】 ICTと福祉 「発達障害のある人の医療トラブル」 岡 耕平(滋慶医療科学大学院大学)	コミュニケーションに困難のある発達障害のある人の中には、診療の中で自分の困り感がうまく伝えられないだけでなく、話を誤解されて誤診されることがあります。医師側と当事者側の特性のミスマッチから医療トラブルに発展するケースもあります。本研究では、そのような医療トラブルに巻き込まれないために、実際のトラブル事例分析を踏まえて、当事者側医師側双方にとって良いトラブル防止策について検討いたします。
11:10-12:00	Room:C1	★【No.7-3-C1】 ICTと特別支援教育 「特別支援学校での情報端末(iPad, iPod)の活用事例」 白濱 菜穂子(愛知県立みあい養護学校)	タブレット端末の登場やスマートフォンの普及により、障害のある人の支援機器としての活用が目まぐるしく集まっています。本校では、研究助成金を得て情報端末機器(iPad, iPod)を使ったコミュニケーション支援や学習指導を展開しています。知的障害のある自閉症の児童が多数在籍する特別支援学校小学部でのこれらの機器の活用事例を紹介いたします。
	Room:C2	■【No.7-3-C2】 福祉や教育の未来を考える 「合理的配慮の提供から生まれるユニバーサルな教育」 近藤 武夫(東京大学)	誰もが参加できるユニバーサルな教育の実現のためには、多様な障害のある児童生徒が参加できる教室環境、特別な教科書・教材(+指導や指示のスタイル)を個々の障害から来るニーズに合わせて調整することができるようにしておくこと、試験や評価での個別配慮や、授業や試験の日程調整など、様々な調整が必要となる。今後日本で議論されていくべき「教育における合理性」の意義と問題点について議論する。
	Room:554	★【No.7-3-554】 重度肢体不自由の支援 「難病患者／重度障害者のコミュニケーション支援技術 ～スイッチひとつが開く世界～」 伊藤 史人(一橋大学)	本セミナーは、特にALSや筋ジストロフィー患者の支援者を対象にしたものである。病気が進行した場合でも、残存能力でPCの操作を行うことが可能である。スイッチひとつで、ほぼすべてのPC操作が可能になる。これにより、わずかな残存筋力で文章を作成したり、ネットを閲覧したりすることが可能になる。患者が操作を効果的に行うには、支援者の適切な対応が必要である。本セミナーでは、スイッチひとつでPC操作を可能とする「ハーティラーダー」を用いた方法を紹介し、実習を通して実際の使い方を体験してもらう。実習においては、患者と同じ条件を想定し、参加者は原則としてスイッチひとつで操作を行う。また、スイッチの適用事例などを紹介し、今後の支援に生かしてもらう。
	Room:555	■【No.7-3-555】 ICTと福祉 「介護の必要な人のための安全・安心テクノロジー ―見守り装置からアラーム・リマインダーまで―」 巖淵 守(東京大学)	一人暮らしの不安は本人にも家族にもあるものです。病気が事故を防ぐことはもちろんですが、病気が事故が起こった時にどうするかを考えておくことも大切です。現在、安心して安全な生活を送る上で役立つ様々な見守り装置があります。しかし、監視される事は誰にとっても嬉しいことではありません。北欧の国々では人権を守るという観点から、こうした見守り装置の導入に慎重です。ここでは、安全・安心のためにどのような技術があり、それをどう導入すべきかについて考えます。
12:15-12:45	Annex2	■【No.7-4-A2】 人と技術 ランチトーク 「障害を語る」 大河内 直之(東京大学)・中邑 賢龍(東京大学)	リビングライブラリーをご存知ですか? 様々な体験をした人々を本として借り出し、本となった語り部から直接話を聞ける図書館です。その活動の意義、どこで開催されているか、どうやって本が編集されるかなどリビングライブラリーのすべてをご紹介します。ランチをご持参下さい。

時間	Room	セミナー番号／講義名／講師名	内容
13:00-13:50	Annex2	■【No.7-5-A2】 人と技術 「忘れるということ ―記憶に問題のある人にとって必要な支援を考える―」 増本 康平(神戸大学大学院)	記憶は20代前半をピークに年齢とともに低下します。また、80歳代の約20%、85歳以上の約半数は重篤な記憶障害を呈する認知症に罹患します。長寿社会となった今、記憶機能の低下やそれによって生じる日常生活の問題は、多くの人にとって不可避な問題だといえます。本セミナーでは、記憶機能の低下によって生じる日常生活の問題、現在行われている支援の長所と短所をふまえて、記憶の問題の解決に必要な支援について解説します。
	Room:C1	●【No.7-5-C1】 ICTと特別支援教育 Microsoft セッション 「教える工夫 ―PowerPointを使った特別支援教育教材の作り方―」 近藤 武夫(東京大学)	PowerPoint(PPT)は今や日本全国どの学校のコンピュータにも導入され、多くの人が当たり前のように使える道具となってきた。スライド作成の工夫により、インタラクティブに動く教材を作るためのプラットフォームとして最適な環境でもある。PPTでどのようなことができるのか、コミュニケーション支援や学習支援など、教材製作方法の具体例とPPTと組み合わせると便利な素材・教材を紹介する。
	Room:C2	●【No.7-5-C2】 福祉や教育の未来を考える パシフィックサプライ セッション 「VOCAユーザーの現状と、弊社AAC機器の今後の展開について」 パシフィックサプライ(株)	VOCAを利用しているユーザー様が、学校や日常生活の中でどのように使用されているか?、事例をご紹介します。またAACレンタル事業「パットレンタル」を開始して、現在までに500件を超えるご利用を頂きました。ご利用された方のアンケートから見た現状やレンタル事業のご紹介、弊社のAAC事業の最新商品「パワーリンク」「ブックウェアム」、新展開についてもご紹介いたします。
	Room:554	■【No.7-5-554】 重度肢体不自由の支援 「車いすの目利きを目指す ―さまざまな車いすの見方・選び方・適合の基礎―」 渡辺 崇史(日本福祉大学)	車いすは、歩行等が困難な人の移動を支援する福祉用具の1つです。そのため利用する人の身体状況や利用目的、そして望む生活等に応じて選定すること、さらには個別に合わせて調整することが必須です。適合した車いすの利用は単に移動手段を獲得するだけでなく、生活の幅を広げ、活動参加を促すといった日常生活を過ごすためになくてはならない道具となり得ます。今回は簡単な実習を交えて、基本的な車いすの見方・選び方。適合の基礎についてお話します。
	Room:555	■【No.7-5-555】 ICTと福祉 「海外の最新の支援技術」 巖淵 守(東京大学)	科学技術が日々発展を遂げ、社会の情報化が益々進むとともに、技術製品・サービスのグローバル化が加速しています。こうした中、支援技術はどのように変化してきているのでしょうか。2011年に開催された欧米における支援機器の展示会やカンファレンスで見かけた新しい支援技術製品から、最先端技術を駆使したもの、斬新なアイデアに富んだもの、デザインが洗練されたものなどを紹介すると同時に、最近の動向を探ります。
14:00-14:50	Annex2	■【No.7-6-A2】 人と技術 「新しい知能検査を学ぶ WISC-IVを理解する」 上野 一彦(大学入試センター)	ウェクスラー知能検査は、多くの心理尺度が知能・認知尺度として開発される中、世界約30カ国で使用される国際的な知能検査としてその位置を確固たるものとしていた。2010年12月、日本版児童用WISC-IVが5年の歳月を費やし完成した。この新しい装いで登場したWISC-IVを中心に、この検査の特徴と内容について紹介し、これからの心理アセスメントの動向や課題についてお話する。
15:00-15:50	Room:C1	●【No.7-7-C1】 ICTと特別支援教育 Microsoft セッション 「勉強や仕事の片づけが苦手な人のために ―OneNoteを使った整理術―」 平林 ルミ(日本学術振興会・東京学芸大学 特別研究員)・近藤 武夫(東京大学)	プリント・書類、メモの管理は、片付けが苦手な人やさまざまな障害のある人にとって頭の痛い問題です。OneNoteは情報の管理に役立つ機能をたくさんもっています。プリントはスキャンしてパソコンにいれOneNoteで管理すれば、検索してすぐに電子ファイルを見つけ出せます。電子ファイルが見つければ、閲覧、パソコンの拡大機能を使つての拡大表示、テキストリーダーで音声化することが可能です。情報の管理に役立つOneNoteの使い方を紹介します。
	Room:C2	●【No.7-7-C2】 福祉や教育の未来を考える 「さわってみよう!新世代の支援ツール「トーキングエイド for iPad(仮称)」体験会」 (株)バンダイナムコゲームス	リリース間近の新世代の支援ツール「トーキングエイド for iPad(仮称)」を実際に操作してみませんか? 操作した感想をお寄せ下さい。より良い製品に仕上げるために、また、将来のアップデートのための参考とさせていただきます。1台につき最大5名で行います。先着順ですのでお早めに会場にお越しください。立見OK。
	Room:554	■【No.7-7-554】 重度肢体不自由の支援 「重度肢体不自由がある人の残存機能のとりえ方」 畠山 卓朗(早稲田大学)	重度肢体不自由がある人が自立して支援機器を操作することを前提に、残存機能のとりえ方に関して大切なポイントについて学びます。最初に、身体に残された身体運動の中から操作スイッチに最適なものを探し出します。さらにそれに適した操作スイッチの選択と入力法の決定、スイッチの操作訓練、最後に支援機器への接続となります。支援機器の有効活用を実現するために、障害当事者を含むチームで取り組むことがポイントです。
	Room:555	★【No.7-7-555】 ICTと福祉 「既存のPowerPoint教材をiPadで活用する方法 いいアプリが見つからなければPowerPointで作っちゃおう!」 高松 崇(NPO法人 支援機器普及促進協会(ATDS))	iPadには非常に大きな可能性を秘めておりますが、パワーポイント等で作成された多くの既存教材を利用するには、ちょっとした工夫やアイデアが必要になります。ファイル変換方法やクラウドサービスの利用・リモート操作まで多くのデモを中心に、パワーポイントをうまくiPadで利用する方法について解説いたします。
16:00-17:00	Annex2	■【No.7-8-A2】 人と技術 対談:「ICT時代の新しい能力を考える」 上野 一彦(大学入試センター)・中邑 賢龍(東京大学)	覚える事や計算することをICT機器が肩代わりするようになってきています。そういった機器を活用して知能検査を受けたいという人が出てきてもおかしくありません。人は機器を用いて測定された知能を認めるのでしょうか? 日本語版WISCの開発者である上野一彦先生にこの疑問をぶつけながらICT時代の新しい能力を考えてみます。
17:15-19:00	Annex1	■【No.7-9-A1】 対話を楽しむ レセプション	軽食と飲み物を用意したレセプションを開催します。定員がありますので事前に申し込みが必要です。参加費は別途5,000円となります。

時間	Room	セミナー番号／講義名／講師名	内容
9:15-10:45	Annex2	★【No.8-1-A2】 人と技術・社会 「ここまでできる?ここまでやるかのPowerPoint」 矢島 悟・本田 祐介(E-Yo!視覚支援club/長野県伊那養護学校)	これまで数々の視覚支援教材を産み出してきたE-Yo!視覚支援club。そんな彼らの最強ツールは、ご存知プレゼンテーションソフト"PowerPoint"。儀式的行事の翻訳スライドから始まったE-Yo!視覚支援clubの歴史。そこから広がった、説明、学習、ゲーム、スキャン…PowerPointの限界に挑戦し続ける男たちの軌跡が今ここに!
	Room:C1	■【No.8-1-C1】 コミュニケーションを学ぶ 「AAC(拡大・代替コミュニケーション)の基礎ー重度障害のある人たちとのコミュニケーションー」 中邑 賢龍(東京大学)	重度重複障害や重度知的障害を有する人とのコミュニケーションのとり方をロールプレイを交えながら分かりやすく解説してみます。普段、なにげなく行っているコミュニケーションの問題点に気づいて頂く時間にもなればと思います。
	Room:C2	●【No.8-1-C2】 専門家や親の声を聞く OT協会 セッション 「作業療法士が行う遊びから学習への支援」 高橋 知義(こぐま福祉会 こぐま学園)	発達領域の作業療法士は、子どもたちに対して、遊びを中心としたいろいろな作業活動を利用して、個々の運動機能や日常生活技能、学習基礎能力、心理社会的発達などの発達課題を支援しています。今回はこれまで関わってきた事例を通して、遊びの重要性と遊びから学習につなげるための作業療法の視点を紹介していきます。
	Room:554	★【No.8-1-554】 教育現場からの提案 「e-ATユニットを使いこなそう! ~AACとATを融合させた技法・概念の紹介~」 小西 順(大阪府立堺支援学校)	ICTが「生活の質」を高める手段であることが支援学校で認知されて久しい。しかし支援学校の教員が、一般校と比べICT活用能力に関して最も弱い(文部科学省より)。この状況に対し筆者が長年取り組んできた成果を踏まえ「支援者を補助するモデル」とその手法となる「e-ATユニット」を紹介する。このモデルに対して昨年度は、「文部科学大臣賞」(教材教具展)を、今年度は、長年の取り組みに対して「博報賞」を受賞した。
	Room:555	★【No.8-1-555】 科学的実践を考える 「読み書き障害の「オスカー・ビストリウス」をめざして ~学校で読み書き支援技術を駆使して学習する子ども達を育てるためには~」 河野 俊寛(石川県立明和特別支援学校)	読み書き障害のある子ども達が、学校生活の中で、読み書き支援技術を使って学習するためには、どのような技術を活用し、どのように学校等に働きかけることが有効なのかを考えるために、すでに読み書き支援技術を学校生活の中で使っている小学生と高校生の事例を紹介します。
11:00-12:00	Annex2	●【No.8-2-A2】 人と技術・社会 ソフトバンク セッション タブレットPCを用いた特別支援教育 「あきちゃんの魔法の筆箱プロジェクト報告(2) 肢体不自由や感覚障害への実践事例」 中邑 賢龍(東京大学)・他	あきちゃんの魔法の筆箱プロジェクト(ソフトバンクグループと東京大学先端研人間支援工学分野の共同プロジェクト)では、全国の特別支援教育の現場にiPadを提供し、どのようなアプリケーションがどのような子どもにも有効か、また、どのような問題が生じるかを検討しています。ここでは、そこで報告された肢体不自由・感覚障害への適用事例を紹介しながらタブレットPCを用いた教育を考えてみます。
	Room:C1	■【No.8-2-C1】 コミュニケーションを学ぶ 「環境を調整することで変えるコミュニケーションーTEACCHIに学ぶものー」 坂井 聡(香川大学)	TEACCHプログラムといえば「構造化」というイメージがあると思います。「構造化」は、自閉症などのコミュニケーションに障がいがある人の行動を管理するために行うものではありません。こちら側の意図を分かりやすく伝えるために行うものなのです。同時に「構造化」することは、表出性のコミュニケーションも引き出すことにつながります。ここでは、環境を調整してコミュニケーションの力を引き出す方法について考えてみたいと思います。
	Room:C2	★【No.8-2-C2】 専門家や親の声を聞く 「息子マッチと支援機器たち コミュニケーションの楽しさを引きだしてね~ 息子の経験値アップの挑戦」 朝岡 有香(保護者)	自閉症と知的障がい、口頭での表現が難しい息子マッチ。地域の小学校から、特別支援学校の中学1年になったマッチは、トークアシスト・PC・iPhone・iPad…いろいろな支援機器とともに、小2から5年間コミュニケーションの経験値をアップさせてきました。家庭で、学校で、支援先で、地域で。様々な人の共通理解のもとに進んできた挑戦。映像とともに、ぎゅうっとお伝えします。理解を得るための秘訣も。本人登壇?
	Room:554	★【No.8-2-554】 教育現場からの提案 「支援機器や支援ツールが教育現場で当たり前に使われる時代を迎えるには? ~専門家、教員、保護者の立場から~」 小川 修史(兵庫教育大学)	「いつか、教育現場で支援機器や支援ツールが当たり前に使われる時代が来る…」そう思い続けて10年以上経ちますが、そうなっていないのが現状ではないでしょうか?現状を打破するためには「成功しました」といった結果よりも、成功するまでの苦労話や失敗体験を発信・共有することが今後重要になると考えます。そこで、教員、専門家、保護者の立場から、「成功するまでの苦労話」「失敗体験」について対談形式で発表します。
	Room:555	■【No.8-2-555】 科学的な実践記録の取り方 「次に伝わる実践の方法 福祉や特別支援教育現場での記録の取り方・効果の見方を学ぶ」 高橋 麻衣子(東京大学)	「良くできるようになったね」「これを使えば一人でできるね」…それって本当でしょうか? 新しい支援機器や指導方法を導入したときに、最も大事なはその効果です。客観的に「この機器・指導法には効果がある」と伝えられることが、その機器や指導方法を広めることにつながります。本講演では、「効果があった」というための比較の方法、注意すべき点をお話ししながら、次に伝わる実践方法のやり方を考えていきます。
12:15-12:45	Annex2	■【No.8-3-A2】 人と技術・社会 ランチトーク 「障害を語る」 中邑 賢龍(東京大学)・他 ゲスト	ランチをご持参下さい。様々な障害のある人に登壇してもらい、どのようにランチをとっているのか語ってもらいます。普段は意識しない食事をとるという行動をきくと意識できるに違いありません。

時間	Room	セミナー番号／講義名／講師名	内容
13:00-13:50	Annex2	■【No.8-4-A2】 人と技術・社会 対談:「心ある技術利用について考えるートップランナーが語る失敗ー」 畠山 卓朗(早稲田大学)・坂井 聡(香川大学)・渡辺 崇史(日本福祉大学) 聞き手:中邑 賢龍(東京大学)	支援において失敗して落ち込む事はありませんか?第一線で活躍する人たちも数々の失敗を繰り返しての今があります。技術は人を喜ばせるだけでなく、時に人を傷つけることもあります。本当に嬉しい心ある技術利用とはなんでしょうか? スピーカーに様々な体験を語ってもらいながらこのテーマを考えていきます。ATやAACの専門家の失敗談に耳を傾けながら成功への糧を持ち帰って下さい。
	Room:555	■【No.8-4-555】 科学的な実践記録の取り方 「簡単な統計ーそこで平均を使っていいの?誰にとっても納得できる客観的な証拠、すなわちデータが必要になります。本講演では、データのとりかた、まとめかた、比較の仕方について、紹介します。必要なのは小学校でならった計算方法だけ。「どうして教育や福祉に数字が必要なのか」「とりえず平均を出せばいいんでしょ」と考えている方、ぜひ聞きにきてください。	新しい機器を使って学習や就労の支援をするときに、気になるのは「この機器を使うことは本当に効果があるのか?」ということです。効果を説得的に主張するためには、誰にとっても納得できる客観的な証拠、すなわちデータが必要になります。本講演では、データのとりかた、まとめかた、比較の仕方について、紹介します。必要なのは小学校でならった計算方法だけ。「どうして教育や福祉に数字が必要なのか」「とりえず平均を出せばいいんでしょ」と考えている方、ぜひ聞きにきてください。
14:00-15:30	Annex2	■【No.8-5-A2】 人と技術・社会 一般公開パネルディスカッション 「ICT時代の障害のある子どもの入試を考えるー合理的配慮とは何か?ー」 中邑 賢龍(東京大学)・近藤 武夫(東京大学)・平林 ルミ(日本学術振興会・東京学芸大学 特別研究員)	試験における【合理的】配慮とはどのようなものを指すのだろうか。日本には現在のところ障害者差別禁止法がないため、試験などの競争的な場面に障害者が能力があっても事実上参加できないような体制になっていても、それを禁止する法律はない。しかし差別禁止法はそう遠くない将来に実現し、入試を含む多くの試験で合理的配慮の提供が義務づけられるようになることが予測される。試験での合理的配慮が、すでに差別禁止法に基づいて提供されている米国や英国の事例からその具体例を紹介する。
14:00-14:50	Room:555	■【No.8-5-555】 科学的な実践記録の取り方 「ログを記録することで変える福祉・教育ー誰でも出来る記録方法ー」 武長 龍樹・高橋 麻衣子・巖淵 守(東京大学)	ログとは、記録をとることです。人間はログをとりたがる傾向があり、日記や体重の記録、その日の睡眠時間、歩数などをつけている方も多いでしょう。なんとなくつけているログを見直すと、新たな発見が生まれることがあります。その発見をその後の生活に役立てることもできます。もちろん福祉や教育の現場においても、ログをとることは重要な役割を果たします。近年、携帯電話やタブレットPCなど、身近なモバイル端末によって、文字だけでなく、音声・写真・位置情報・加速度などのログを記録できるようになりました。本企画では、このような情報端末のログを利用して、福祉と教育を変える方法を考えます。
15:30-16:00	Annex2	■【No.8-6-A2】 人と技術・社会 Closing	今年のATACカンファレンスで何が見えてきましたか?少し振り返ってみましょう。

一般発表(研究・実践ポスター発表、テーブルデモ発表)

Annex1

12月17日(土) / 10:00~16:00
12月18日(日) / 9:30~15:30

揭示は、上記の期間中行われておりますが、責任発表時間には、発表者がブースにてご説明いたします。責任発表時間については、それぞれのブースにてご確認ください。

2011年12月17日(土) 研究・実践ポスター発表

発表区分	発表タイトル／発表者名	要旨
活動紹介・報告	「教育支援機器及びソフトウェアの普及ツールに関する研究(2)」 金森 克浩(国立特別支援教育総合研究所)	国立特別支援教育総合研究所に整備している情報関連支援機器展示室「ライブラリー」の活動紹介です。発表では本年度に再整備された展示室の紹介と支援機器やソフトウェアのカタログの紹介をするとともに、実際のWebサイトを見てもらい、支援機器活用についての参加者との交流を行いたいと考える。また、新たに始める支援機器のモニター調査について紹介する。 参考サイト:http://forum.nise.go.jp/ilibrary/htdocs/
実践研究	「Assistive Technology利用効果に対する一考察 ～その人らしさを引き出す支援～」 鈴木 充紘(会田記念リハビリテーション病院 作業療法士)	昨今、障害者に対するIT支援が進められているが、作業療法における効果が、社会参加やQOLなどの心理的側面へどのように反映されているかについての報告は決して多くないのが現状である。今回は作業療法におけるAssistive Technology 導入により主体的な生活を取り戻した事例への支援経過と、AT利用による心理的効果を報告する。
開発	「アクセシブルデザインの理念を取り入れた新しい電子楽器 ～そして、障害種を越えて」 赤澤 堅造(大阪工業大学)	障害者が自分で演奏できる電子楽器サイミスを開発し、障害者支援施設(脳性麻痺33名、障害区分程度6)での2年間の実践的研究により、障害者が演奏を楽しむ日中活動充実およびQOLの向上に効果があることを確認した。2011年5月現在では38名 が毎週20～60分程度演奏を楽しみ、演奏会などが開催さ れている。聴覚障害、視覚障害の方が演奏できるよう、入力デバイスを検討しており、意見交換を行いたい。
活動紹介・報告	「筋ジスボランティア工房の取り組みについて」 佐々木 祐二(独立行政法人国立病院機構徳島病院)	筋ジス患者は重度の運動機能障害のため市販されている機器の多くは使用することが困難である。そこで、それらの問題を解決する事を目的に平成10年に筋ジスボランティア工房を発足し支援機器の提供を行ってきた。これまで、終日人工呼吸器が必要となった筋ジス患者への電動車椅子へ人工呼吸器搭載や余暇活動の支援としてカメラ操作の電動化などに取り組んできた。ボランティア工房の活動は筋ジス患者のQOL向上に寄与してきた。
活動紹介・報告	「視覚障害者はパソコンを使う ～パソコンを使って働く、遊ぶ、人と出会う～」 福島 憲太(弱視者問題研究会)	視覚に障害がある人たちがパソコンを使ってさまざまな活動をするようになり、長い年月がたちました。パソコンを使うようになって、視覚障害者の生活はどのように変わったのでしょうか。また、今後視覚障害者がパソコンを使ってより生活を豊かにしていくうえでの課題はなんでしょうか。本稿ではまず、視覚障害とはどのような状態をさすのか、パソコンを使用している視覚障害者の割合についてとりあげます。そのうえで、個々が予定している行動に関する情報を手軽に手に入れられるようになったなどといった変化や、高度なプログラミングを学んだ視覚障害者でも職域が一般事務に限定されるなどの課題についてとりあげます。
開発	「肢体不自由児の視覚支援のためのアセスメント機器開発に向けた取組」 宮平 順子(沖縄県立泡瀬特別支援学校)	充実した授業実践には、児童生徒の実態把握が重要である。本報告は、視野という視機能に焦点をあてて「視覚に課題があると推測できる児童生徒」の見え方の把握のために、工学的な技術と知識を提供できる工業高等専門学校と連携してアセスメント機器開発に取り組んでいる過程の報告である。機器の開発によって児童生徒一人一人の見え方に関する情報の共有が可能となり、視覚に関するアセスメントがより具体化されることが期待できる。
活動紹介・報告	「肢体不自由児の実態に合った支援機器の活用と児童の変容 ～「できない」を「できた」に変える活動～」 太田 健作(沖縄県立桜野特別支援学校)	本稿では、沖縄高専と連携し開発したe-AT機器を用いて、重度重複の肢体不自由児が「自分ではできない活動」を「できる活動」に変えていくことを目指した事例について報告する。その結果、今までできなかったことが自分でできる喜びや達成感、一緒に楽しむ他者との関わりを導き、意欲と主体的な動きを引き出すことができた。
実践研究	「動作計測による肢体不自由児機器操作状態の可視化」 神里 志穂子(沖縄工業高等専門学校)	本研究では、肢体不自由児の機器操作状態を把握する事を目的とし、動作計測によって上肢動作の軌跡を抽出し、レーダーチャートにより可視化することで、ジョイスティック型マウスの操作性を評価できる事を確認した。開発したジョイスティック型マウスを用いた操作性を上肢動作の軌跡から比較すると1号機に比べて、2号機と3号機は、肩と肘の動きが少なく、手首から手先を動かす様子が確認され操作性が上がった事が確認された。
実践研究	「発達障がい児のための療育ソフトが足し算や読み書き能力に及ぼす効果」 鶴川 直樹(高根大学大学院 総合理工学研究科)	我々は、学習に遅れがある等、発達に障がいのある児童ひとりひとりにあった療育ソフトの開発し、マンツーマン方式で訓練を行い、その効果を検証している。今回は、数の概念の発達に遅れのある児童に対しての訓練、漢字書字を苦手としている児童に対しての訓練について報告する。また、2011年からは遠隔地における非対面形式の療育ソフトを用いた訓練の検証を行っており、その活動についても報告する。
活動紹介・報告	「iPod Touchを用いた動画切り替え方法の検討 -スイッチを用いて動画を切り替える児童の事例から-」 佐野 将大(香川県立高松養護学校)	iPod Touch用のコントローラを改造し、スイッチをつなぐことで、動画や音楽を自分で切り替えて選ぶことができるようになる。ここでは、ある児童の指導事例を通して、動画を切り替えるための設定の違いについて、1つのスイッチから複数のスイッチへ指導段階が移行していくタイミングについて、その際用いた観察の視点について検討する。
活動紹介・報告	「新しい地域福祉を目指した街かどディハウス「きんき茶ろん」 5年間の実践報告 - コミュニティサロンがもたらした新しい絆 -」 寺田 美哉子(NPO法人きんきうえぶ)	「街かどディハウスきんき茶ろん」は、高齢者の在宅での生活基盤を目的とした大阪府富田林市の委託事業であり、その施策のまず第一の理由は、介護保険制度破綻の回避である。5年間の活動を通して、この活動を全国に展開する事が、これからの高齢社会に希望を与えると確信し、活動内容やマネージメント、成果をここに報告し、提案したい。
開発	「ユニバーサルなデジタル教科書作成のためのガイドライン試案」 梅田 真理(国立特別支援教育総合研究所)	本研究では、障害のある子どもが教育にアクセスするための重要なツールとなるICTの活用に向け、その中核となるデジタル教科書・教材作成のガイドライン(試案)を作成した。これは、WebのアクセシビリティガイドラインであるWCAGと学習のユニバーサルデザイン(UDL)のガイドラインを参考として作成した。今回は、国内外のデジタル教科書の状況やWCAG及びUDLについて紹介し、現時点でのガイドライン(試案)の概要を報告する。

2011年12月17日(土) テーブルデモ発表

発表区分	発表タイトル／発表者名	要旨
開発	「沖縄発e-AT機器の開発とキット化への道のり ～高等専門学校と特別支援学校の連携～」 蔵屋 英介(沖縄工業高等専門学校)	沖縄高専では、近隣の特別支援学校と連携協定を結び、互いに協力体制をとることでスイッチ教材の開発や技術研修を実施してきた。連携の中でe-AT機器の開発を行っており、現場の要望に応える形で試作した物には製品化の要望が多く、これらをキット化することで、より多くの人が安価に自作し利用できる機会を提供している。本発表では試作品の中から特に要望の多かったACリレーボックスと圧電スイッチをキット化したので紹介する。
活動紹介・報告	「特別支援学校で使える自作教材 マジカルトイボックスの実践より」 禿 嘉人(東京都立光明特別支援学校)	AACやATの普及を目指して、東京を中心に活動を行っているマジカルトイボックスについて紹介します。マジカルトイボックスのイベントで製作した支援機器やこれまで発行してきた書籍を中心に、特別支援学校の教員や経験者が、障がいの重い子どもたちのコミュニケーションを豊かにできないかということテーマに実践している工夫や活用している支援機器について細かいノウハウを含めてお話をしたいと思います。
開発	「特別支援教育向けに工夫した支援機器の開発 ～ハルス出力付きラッチ&タイマー、小型無線スイッチ、導入支援機能付きタイムエイド等の紹介～」 竹島 久志(仙台高等専門学校)	特別支援教育向けの支援機器としてスイッチラッチ&タイマー、無線スイッチ、タイムエイドを開発しました。これらには市販品には無い、特別支援教育で役立つ機能や使い勝手を備えたつもりです。発表ではそれらの機器を展示紹介しますので、使っていただき本場に役に立つのか評価・意見をお願いします。また、支援機器のニーズがありましたらお聞かせ下さい。
開発	「障害種を越えた楽しいデジタル教材楽器Cymis ～アクセシブルデザインを目指して」 奥野 竜平(摂南大学)	筆者らは障害者のリハビリテーション、QOLの改善、日中活動の充実に貢献できることを目指し、障害者が気軽に本格的な曲目の演奏を楽しむことができる新しいリニアプリーの電子楽器Cymis (サイミス)を開発し、その有用性を身体障害者支援施設で示してきた。本発表では実機を提示し、福祉・教育の関係の方にも体験をしていただき、意見交換によりデジタル教材としての可能性を明らかにすることを目指している。
開発	「振動を伝える楽器: Vibracion Cajonの提案 楽器の仕組みと応用」 金箱 淳一(女子美術大学 アートデザイン表現学科)	本研究では、主に聴覚に障害がある人に演奏を楽しむ機会を提供する打楽器「Vibracion Cajon」、打楽器の演奏を視覚的に表現する「Vibracion Cajon2.5」を提案する。Vibracion Cajonは、音を中心として他のメディアとの相互変換を行う実験的な試みである。その方法として、ヘルメット型の木製打楽器「カホン」に、演奏したときに発生する「楽器の振動」を他者に伝える機能を付加した。

一般発表(研究・実践ポスター発表、テーブルデモ発表)

Annex1

12月17日(土) / 10:00~16:00
12月18日(日) / 9:30~15:30

掲示は、上記の期間中行われておりますが、責任発表時間には、発表者がブースにてご説明いたします。責任発表時間については、それぞれのブースにてご確認ください。

2011年12月18日(日) 研究・実践ポスター発表

発表区分	発表タイトル／発表者名	要旨
活動紹介・報告	「VOCAやiPadを用いたコミュニケーション支援」 石田 哲也(社会福祉法人わらしべ会村野わらしべ)	通所施設に通う知的障害と自閉症を伴う利用者の方への、VOCAやiPadを用いたコミュニケーション支援についての実践報告です。「誰もがわかりやすく」をテーマに作成しました。多くの人に、知的障害や自閉症の方へのVOCAやiPadを用いたコミュニケーション支援について知ってもらえる機会になれば嬉しく思います。
活動紹介・報告	「知的障害のある子どもへのコミュニケーション指導 ―コミュニケーション機能の分析から―」 橋本 沙季(香川大学大学院)	本研究では、重度の表出障害のある子どもにコミュニケーション指導を行い、本児の表出におけるコミュニケーション機能や手段がどのように変化するかを明らかにすることを目的としている。その結果、BOOKやVOCAがコミュニケーション行動を意欲的にしたり、コミュニケーション機能に影響を与えたりすることが明らかになった。また、本児にとって指さしが重要なコミュニケーション手段となっていることが明らかになった。
活動紹介・報告	「子どもの「かかわる力」を育てるための系統的・継続的な指導 ―コミュニケーションの発達課題とその指導内容―」 中杉 久美子(やまぐち総合教育支援センター)	我が子の「物や人にかかわる力」を育てたい保護者の皆様、指導計画立案や評価に悩んでおられる先生方、系統的・継続的な指導についてぜひお話ししましょう!認知・言語理解、社会性、AAC手段活用能力、音声言語表出の4項目を柱として、乳幼児から成人までのコミュニケーション発達課題一覧表を作成しました。また、発達課題ごとに、新学習指導要領(自立活動・各教科等の学習内容)との関連や支援機器等を整理しています。
活動紹介・報告	「携帯電話を用いた買い物行動の形成 富士通製絵カードアプリを活用して」 二宮 綾子(香川大学大学院)	知的障害と自閉症のある児童1名に対して、現実場面における買い物指導を行った。手順を忘れてしまう本児に対し、携帯電話のアプリケーションを用いて指導した。その結果、これまで使用していた絵カードではできなかった行動が短期間で形成させた。ここでは、携帯電話を用いた買い物指導の経過を紹介する。
実践研究	「携帯電話を使用したひらがな指導の効果」 實光 佐知子(香川大学大学院)	本研究では、筆順をアニメーションで視覚化することで筆順の理解を支援する携帯電話アプリケーションを使用した。そして、携帯電話使用時と非使用時では、書字にどのような影響があるのかを検討した。その結果、携帯電話アプリケーションを使用したひらがな書字の指導効果の可能性と、ひらがなの文字の特性に関する課題がみえてきた。
活動紹介・報告	「一橋大学における発達障害学生の遠隔講義による修学支援」 伊藤 史人(一橋大学)	本報告では、発達障害学生の修学支援として、ネットワークを用いた遠隔講義を実施した例を紹介する。近年、本学でも多数の発達障害学生の存在が明らかになっており、その対策が急務となっている。支援の根拠としては「発達障害者支援法」があり、大学は積極的に修学支援を実施していかなければならない。これらの学生は、障害に起因したさまざまな問題により、通常の講義への出席が困難となり大学生生活に問題を抱えていることが多い。それらを踏まえて、発達障害学生の修学支援を目的とした遠隔講義の実施について、その手法と効果について述べる。また、遠隔講義を行うに当たって生じた、教材の選定やネットワーク、現場での運用の問題についても述べる。
活動紹介・報告	「特別支援学校における特別支援学校におけるコミュニケーション・シンボルを使った実践 ―「わかる」「できる」から生まれたコミュニケーション―」 大久保 哲綱也(長野県安曇養護学校)	子ども達が「わかる」こと、「できる」ことを目指して日々支援を行なっています。今回コミュニケーション・シンボルを使って、試行錯誤しながら取り組んできた実践を、そこで生まれた支援者や友だちとの新たなコミュニケーション場面で共に紹介します。
開発	「アクセシブルデザインを目指した共用印刷物」 土井 幸輝(国立特別支援教育総合研究所)	視覚障害の有無に関わらず誰もが共用できる各種教材等の作成が教育現場で求められている。本研究では、施設案内用共用パンフレットの試作を行った。本発表では、試作したパンフレットを紹介する。
活動紹介・報告	「汎用コミュニケーションエイドVCAN/1Aの開発と発達・知的障がい児のコミュニケーション支援1 ―作業療法士と工学・教育・言語聴覚士・保護者の協働による機器開発と支援―」 相場 有希子(新潟大学大学院自然科学研究科、新潟県はまぐみ小児療育センター)	私たちは、コミュニケーションエイドVCAN/1Aの開発を作業療法士・工学・教育・保護者・言語聴覚士の協働で進めています。実践を通して、こども達の支援では、柔軟な設定ができる機器と多職種連携による支援が大切であることが分かってきました。今回、機器開発と複数の子どもたちへの長期支援について紹介します。VOCAを使った支援について一緒に考えてみませんか。いろいろな立場からご意見を頂きたいと思います。
実践研究	「汎用コミュニケーションエイドVCAN/1Aを用いた発達・知的障がい児のコミュニケーション支援2 ―言語聴覚士の立場から―」 渡辺 紗江子(明倫短期大学附属歯科診療所ことばクリニック)	我々は、特別支援学校教諭、工学部の技術者、OT、STらからなる支援チームを作り、汎用コミュニケーションエイド・VCAN/1Aの開発を進めている。今回は、学校や家庭と連携してVCAN/1Aを使用しながら、当クリニックで継続的に言語聴覚療法を行なっている事例で、VCAN/1Aの発展と言語能力の伸びが相互に作用しあい、両者の向上へとつながった事例について、言語聴覚士の立場から報告する。
実践研究	「汎用コミュニケーションエイドVCAN/1Aを用いた発達・知的障がい児のコミュニケーション支援3 ―VCAN/1Aのログデータを用いたコミュニケーション能力評価の提案―」 池上 佳奈(新潟大学大学院)	我々は個々の能力やニーズに合わせて多様にカスタマイズできるVOCA、「VCAN/1A」を開発してきた。VCAN/1Aは、ボタン・ページ情報・画面遷移構造まで自由にカスタマイズできる。そのため、この使用履歴のログデータから使用者のコミュニケーション能力を評価できる可能性がある。今回はそのための基礎研究として、データの分類法およびそれに基づいたログデータのセグメンテーション法について検討した。

2011年12月18日(日) テーブルデモ発表

発表区分	発表タイトル／発表者名	要旨
開発	「障がい児の療育を支援するソフトウェアの紹介」 縄手 雅彦(鳥根大学 総合理工学部)	我々はこれまで発達に障がいのある児童の療育のためのソフトウェアを開発し、必要に応じて希望者に配布してきている。しかし、120以上あるのソフト一つは単一の機能訓練を目的とした小さなものであるため、利用者の実際の状況において使用しにくい場合があることがわかっている。また、マニュアルなどの整備も遅れているため、使用方法についても利用しやすいとは言えない状況である。そこで、今回は実際にどのように使うのか、また、児童に合わせてカスタマイズの要望など、利用者の利便を図れるようじっくり議論する場を提供する。
開発	「障がいの重い子ども達の応答する環境づくり 録音再生キットを活用したコミュニケーション支援の試み 曲げる・転がすVOCA」 杉浦 徹(長野県稲荷山養護学校)	障がいの重い子どもたちが今ある力で周囲に働きかけるツールとしてスイッチイの可能性が近年数多く報告されるようになった。筆者は転がすVOCA(通称Koto-Dama)と曲げるVOCA(通称KotonoHa)を試作した。発表では実際の活動場面、使用方法の紹介と、合わせて実際にそれぞれを手にとっていただき、活用方法のアイデアや改善点等広く意見交換ができればと考えている。
開発	「汎用コミュニケーションエイドVCAN/1Aを用いた発達・知的障がい児のコミュニケーション支援4 ―VCAN/1Aのカスタマイズ支援システムの開発・改良―」 伊藤 涼(新潟大学大学院)	言語やコミュニケーションに障がいをもつ子どもへのコミュニケーション支援として、個々の能力やニーズに合わせて多様にカスタマイズできる汎用コミュニケーションエイド「VCAN/1A」を開発してきた。その普及を目的として本研究では、これを簡単にカスタマイズできる「カスタマイズ支援システム」を開発した。今回はカスタマイズ支援システムの構成・操作法について、及びこれまでのカスタマイズの実践例について報告する。
開発	「視覚シンボル「ドロップス」とウェブ・アプリ「ドロップウェア」の活用について」 青木 高光(ドロップレット・プロジェクト)	ドロップレット・プロジェクトが開発した無料のシンボル集ドロップス(Drops = The Dynamic and Resizable Open Picture Symbols)と、それを応用した「ドロップウェア」を紹介し、ドロップウェアは、絵カードやボードの作成、VOCA、タイマーなどの様々な機能が簡単に使い、しかも無料です。ドロップスとドロップウェアの基本的な機能や活用方法をはじめ、スマートフォンやタブレットとの連携による効果的な使い方などを、実際にデモしながら詳しく説明します。
開発	「通常学級に在籍する発達障害児向けのデジタル絵本」 宮田 圭介(静岡文化芸術大学 デザイン学部)	軽度発達障害のある多くの児童生徒にとって、教科書で扱う物語における登場人物の感情を、文章読解だけで理解することは困難である。そこで、国語教科書で掲載される物語「あめ玉」を題材にして、必要に応じてイラストや動画などを用いて登場人物の感情を可視化して、理解を促すパソコン版デジタル絵本を試作したので紹介する。
活動紹介・報告	「特別支援教育におけるマルチメディアデザイン教科書の導入・活用に関する実践的研究 ―読み書き障害のある児童生徒への支援を通して―」 田中 直壽(大阪マルチメディアデザイン研究会、大阪府立和泉支援学校)	大阪マルチメディアデザイン研究会ではマルチメディアデザイン化された教科書を通常の小学校や支援学校に提供し、理解・啓発を促すとともに、授業実践を通して、「マルチメディアデザイン教科書」の有効性を検証してきた。今回、実践事例として、視覚障害児(弱視児)、LD(学習障害)児など複数の事例から、いくつかの成果を得たので報告する。

2011年12月17日(土)・18日(日) 団体ポスター展示

団体名	発表タイトル／発表者名	要旨
社団法人 日本作業療法士協会	「生活に活かす姿勢・動作分析」 森田 傑(大阪発達総合療育センター 作業療法士)	さまざまな作業には、姿勢や動作がつきもので、対象児者の心身機能や環境と絡み合い表現されます。姿勢の特徴や動作を分析する目を養うことは、対象児者を支援する時に快適な作業状態・作業環境を提供できる基盤となります。姿勢や動作において人それぞれの違いや共通点を見つけ知ること、支援の幅が広がります。生活に活かす支援につながるためにも、姿勢・活動分析は必要です。
社団法人 日本作業療法士協会	「作業療法士が行う遊びから学習への支援」 高橋 知義(こぐま学園 作業療法士)	発達領域の作業療法士は、子どもたちに対して、遊びを中心としたいろいろな作業活動を利用して、個々の運動機能や日常生活技能、学習基礎能力、心理社会的発達などの発達課題を支援しています。今回はこれまで関わってきた事例を通して、遊びの重要性と遊びから学習につなげるための作業療法の視点を紹介していきたいと思ひます。

企業・団体製品展示

Annex1

12月17日(土) / 10:00~16:00

12月18日(日) / 9:00~15:30

同会場で、一般発表(研究・実践ポスター発表、テーブルデモ発表)も行われています。

出展企業・団体 (50音順)	要旨
(株) アクセスインターナショナル 主な展示品・サービス: ボードメーカーファミリー、Qシリーズ他製品の展示およびワークショップ	シンボルを使ったコミュニケーションツールや教材、視覚支援ツールの作成に便利な機能が搭載された「ボードメーカーファミリー」を体験できます。さらに、プレゼンテーションやスマートフォンでも活用できるPCSアニメーションも紹介。また、Qリングでお馴染みQシリーズもお試しいただけます。楽しいプレゼントを用意してお待ちしております。
(財) 伊藤忠記念財団 主な展示品・サービス: マルチメディアDAISY図書(児童書)	発達障害(LD、ADHD、広汎性自閉症)、学習障害(読字障害・ディスレクシア)、知的障害、上肢障害、視覚障害(全盲、弱視)などの障害があるために、通常の書籍を読むことが困難な子ども達を対象とした読書支援・自立支援のひとつとして、マルチメディアDAISY図書を製作しています。その作品を紹介させていただきます。
(株) コムフレンド 主な展示品・サービス: 光る声のものさし「ボイスルーラー」、タイムエイド「メモ・デイプランナー」、開発中の読み上げペン	開発中のものも含めて、新しい製品を展示します。声の大きさや時間といった目に見えないものを「見える化」した製品は、自閉症・発達障がい、知的障がい、認知症、聴覚障がいの方など、幅広い方々を支援いたします。
(有) スペース96	障害者関係専門書店
(株) テクノスジャパン 主な展示品・サービス: バイオスイッチ「MCTOS WX」、コードレス筋電スイッチ「オデコン」、スイッチ切替器「パーソナルコール」	<ul style="list-style-type: none"> ●「MCTOS(マクトス)」をお試しできます。テスト用モニターで、MCTOSが検出した生体信号の変化をリアルタイムで確認できます。 ●額が少し動けば「オデコン」を使って、筋電でおもちゃやVOCAが操作できます。額の検出部とリモコン出力部の間は無線通信仕様。 ●「パーソナルコール」は、一つのスイッチを「パソコン操作」と「呼び出し」の両方に接続して使用できる自動切替器です。
(社) 日本作業療法士協会 作業療法士による発達相談コーナー 相談者: 静岡県立こども病院 専門作業療法士(特別支援教育・福祉用具) 鴨下賢一ほか	発達領域専門の作業療法士による相談コーナーを開催いたします。身辺自立、姿勢保持具、手の使い方、IT活用支援、コミュニケーションなど子どもの発達に関わる全ての内容に対して、経験豊かな作業療法士が対応方法をお答えいたします。普段解決できていない事柄がありましたらお気軽にご相談ください。
パシフィックサブライ(株) 主な展示品・サービス: VOCA各種、スイッチ各種、自社レンタルサービスと自社開催イベントの紹介	AACAレンタルサービス、VOCAの使い方や事例の紹介などの訪問型セミナー、ユーザー様向けのVOCA体験会など、自社で実施しているイベントの紹介と、機器展示では、新商品の腕時計型VOCA「トークトラック」、1つのスイッチで複数のメッセージが選択・再生できる「ステップバイステップチョイスウイズレベル」などを出展します。
パナソニックヘルスケア(株) 主な展示品・サービス: 意思伝達装置 レッツチャット、携帯型拡大読書器 アクティブ・ビュー	本年4月に新発売となった第3世代版の「意思伝達装置レッツ・チャット」をご紹介します。今回の製品よりパナソニックブランドとなり、性能や品質が大幅に向上し、テレビリモコン機能も標準装備となりました。あわせて、視覚障害者に好評を得ております携帯型拡大読書器「アクティブ・ビュー」も展示致します。アクティブ・ビューは小型軽量ながら高性能な拡大読書器です。是非お手にとってご覧下さい。
(株) バンダイナムコゲームス 主な展示品・サービス: トーキングエイド for iPad プロテクトケース、キーガード、ワイヤレススイッチボックス	リリース間近の新世代の支援ツール「トーキングエイド for iPad(仮称)」とその周辺機器を展示いたします。幅広い障害に対応できるようアプリも周辺機器も充実しています。お茶でも飲みながら、本製品と利用場面など、あれこれとお話をしませんか? 貴重な開発秘話がきけるかも。。。お待ちしております。
富士通デザイン(株) 主な展示品・サービス: 特別支援携帯アプリ 「タイマー」・「絵カード」・「筆順」	「携帯アプリで特別な支援を必要とする子どもたちをサポート」 特別な支援を必要とする子どもたちとその指導者や保護者などを対象にした、生活・学習をサポートする特別支援携帯アプリ、「タイマー」「絵カード」「筆順」の3つのアプリを開発しました。本アプリは、時間、伝えたいことやスケジュール、漢字の筆順を視覚化して表示し、障がいの特性に配慮したカラーフィルターやバイブなどを利用して、子どもたちの理解を助けます。 特別支援携帯アプリ: 富士通 http://jp.fujitsu.com/about/design/ud/sna/
マジカルトイボックス	特別支援学校で活用できるスイッチや改造したおもちゃ、VOCAなどの製作を行っています。これまでイベント等で製作した機器を展示し作成や活用のノウハウをご紹介します。
(株) ライフテックサポート 主な展示品・サービス: 視線入力意思伝達装置「スプリング」	「スプリング」は、独自のアイトラッキング技術を使用し、目で画面上のアイコンを見るだけで簡単に意思の伝達ができる商品です。コミュニケーションはもちろんのこと、メールやインターネットの閲覧、動画・音楽・本・写真等も、アイコンを見つめるだけで見たり聴いたりすることができます。

